

## 「既に数多くのクラウド・アプリケーションとのコネクタを持っていたので、業務効率化や作業の自動化に使える」

比較した他社サービスは、弊社が連携させたいアプリケーションに対応していませんでした。

弊社の期待する要件を満たしたサービスは Workato だけでした。

「売れる仕組みづくり」と「売するための戦略づくり」を得意とする株式会社 CDG(東証一部: 2487)の情報システム課岸 竜二様、早坂 哲耶様に、Workato を導入した背景をインタビューしました。



### CDG は、積極的にクラウド活用

— 貴社はどのようなビジネスを行っていらっしゃいますか。

弊社には 3 つの柱があります。1 つ目から「マーケティング・コミュニケーションサービスの提供」、「セールスプロモーションの企画立案・実施」、「顧客の営業活動全般におけるソリューションの立案・実施」です。

店頭でのイベント運営やノベルティグッズ製作、コンテンツ発信などのプロモーション活動を、企画・開発から製作・運営までトータルサポートしています。デジタル面からもアプローチしており、LINE 上で完結できる店頭販促ツール“SP コネクト”といったサービスもあります。

40 年以上に渡って築き上げてきたネットワークがあり、ビジネスパートナーは約 1,000 社、顧客は 2,000 社を数えます。

— 情報システム部門の体制と役割について教えてください。

役割は、経営戦略並びにユーザー部門からの改善要求を把握し、情報システム及び情報インフラに関わる仕組みを開発・導入することです。情報システムの安全性と信頼性を確保するために保守・運用及び管理を適切に行うことも、入力情報の完全性や正確性、正当性を確保する対策を講じることも重要な役割です。

— 社内のアプリケーションは、何割がクラウド化されていますか。

基本業務は全てクラウド化しており、全体では 9 割以上だと思います。利用しているクラウドサービスには、Gsuite、NetSuite、Box、Office365、OPRO、AdobeCC などがあります。

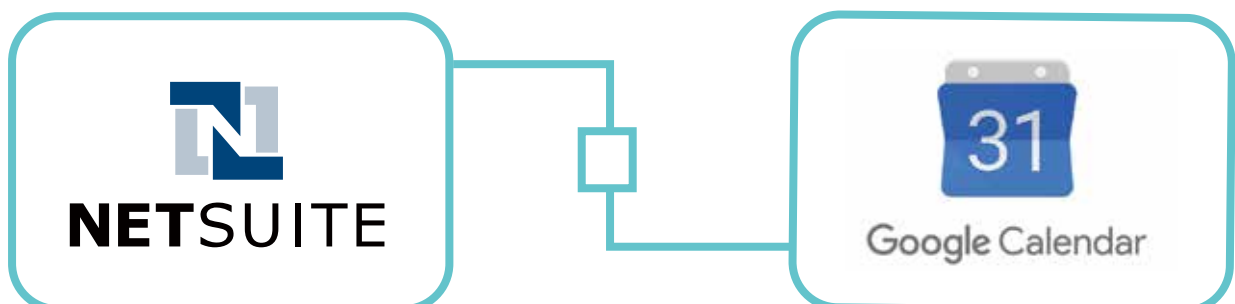
### クラウドサービス統合ニーズの拡大

— Workato の導入を検討した背景には、それらのクラウドサービスを連携させる必要性があったのでしょうか。

今までは、単一アプリケーションで業務が完了させていました。しかし、異なるアプリケーションの情報を他のアプリケーションで共有し、効率よく業務を行いたいという強い要望がユーザーからあがりました。クラウドサービスを連携させることで業務が効率化されるだけでなく、新たな業務の仕方が創造されるのではないかと考えたからです。

— 具体的にどのような連携を考えていましたか。

プロジェクト別採算管理を導入するにあたり、人件費の紐づけを簡易的に行うために Google と NetSuite のカレンダーを同期させる必要がありました。その実現方法を探しておりました。社員はどちらかのアプリケーションにスケジュール登録しており、一元管理できないことが課題でした。



## 類似サービス 10 社の中から Workato を選択

— Workato 以外のサービスも検討しましたか。

はい、ネット検索して 10 社の類似サービスをリストアップしたと思います。実装がクラウド・ネイティブであることは必須条件だと考えていました。他社の中にはソフトウェアを AWS 上に導入しただけのサービスもありましたが、それはクラウドサービスと言えませんよね。

— Workato を採用することにした決め手は何ですか。

Workato は、既に数多くのクラウド・アプリケーションとのコネクタを持っていましたので、「業務効率化や作業の自動化に使える」と将来性を感じました。比較した他のサービスは、弊社が連携させたいアプリケーションに対応していませんでした。結果、弊社の期待する要件を満たしたサービスは Workato のみでした。

— 米国ベンチャー企業のサービスである Workato を採用するにあたり、不安はありませんでしたか。

Workato は既に海外で実績がありましたし、日本でのコンサルティング・パートナーであるアーケイディアさんが検討段階から支援してくれたので、特に不安はありませんでした。米国企業のサービスの方が新しい技術への対応が早く、弊社の「クラウド・ファースト志向」にはとても都合が良いとも考えました。

## Workato は導入・運用のハードルが低い

— PoC(実効性検証)はスムーズに進みましたか。

はい。初回の打合せの時に、Google Suite カレンダーと NetSuite カレンダー双方向を同期させたい旨をアーケイディアさんへ伝えました。すると、翌週の打ち合わせの時には、基本的な動作とデモを見せてもらえました。あのスピードには驚きましたね。その後、テスト環境を使って、動作確認やパフォーマンスの確認を行いました。動作確認中に新たな要望や課題が浮かび上がりました。

— Workato のレシピを実際に作成してみて、貴社の力で運用できると思えますか。

Workato は、プログラミング知識・経験を持たない人でも利用できるような、マウス操作と値の入力だけでレシピを完成させることができるのでとても簡単です。既存のレシピを流用できるので、他のアプリケーションも容易に統合し、運用も容易で、事業部門でも対応できそうです。



実際のレシピ画面

しかしながら、事例の無い新たなアプリケーションのレシピを作成する際は、コネクタ開発や利用できるトリガーにも制限が出ると思うので、その時には、アーケイディアさんのサポートに期待しています。

## 他のクラウドも容易に統合

— Workato を導入してから 1 ヶ月が経ちました。導入効果を実感していますか。

第一ステップである Google と NetSuite のカレンダーをスムーズに同期させることができたので安心してます。今後の他のアプリケーションとの連動も期待しています。

— アーケイディアに期待することは何ですか。

プロフェッショナル・サポートについてはとても期待しています。また、海外や他社での Workato 活用事例をどんどん紹介してもらいたいです。そうすれば Workato の活用の幅が広がられると思います。

— 今後、連携させたい業務アプリケーションやプロセスがあれば教えてください。

まずは、NetSuite と box、NetSuite と Gmail を連携させたいと考えています。Workato は接続先が豊富なので、やりたいことのアイディアがどんどん膨らみます。

また、他のアプリケーションログインせずとも、ビジネス用メッセージングアプリでアクションをさせるポット活用も検討したいです。そこでも Workato が活躍してくれるのではないのでしょうか。

文章作成：ライター 伊藤祐介

【iPaaS】 iPaaS(Integration Platform as a Service) は、従来ミドルウェアで実現していたアプリケーション統合をクラウド上で実現するサービス。

【コネクタ】 サービスやアプリケーション、データベース等に論理的に接続する機能。認証やアプリケーション通信の論理的な確立を行います。

【PoC】 新たな技術が実現可能かどうか判断するために、部分的に実施すること。実効性検証ともいう。

【レシピ】 アプリケーション統合時のトリガー定義、データ加工・変換、マッピング、統合処理のロジックを定義した設計図。再利用可能で、Workato コミュニティにて入手しカスタマイズすることで独自レシピを短時間で作成することが可能。



## Workato について

Workato は、2013 年に米国カリフォルニア州パチーナで設立された iPaaS ベンダーです。デジタルトランスフォーメーション(DX: Digital Transformation)を推進するためのアプリケーション統合基盤クラウドサービスです。

豊富なコネクタとコミュニティレシピを活用し、プログラミング経験のないビジネスユーザでも、容易かつ短時間でアプリケーション統合を行うことが可能となります。

生産性の向上やコスト削減、ビジネス変化への俊敏かつ柔軟な対応、新たな付加価値あるサービス創出、さらには、それらを実現するための企業組織の変革を目指すことが求められている多くの企業にて利用されています。

写真左：Workato 本社にて CEO Vijay Tella と弊社代表取締役社長 鈴木浩之

